

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>● このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています ●
● 本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます ●

プロムナード2008の一環として、演出家の宮本亜門さんをお招きして銀座デザインフォーラムを開催しました。宮本亜門さんは銀座生まれの銀座育ち。お母様

からいつも、銀座のすばらしさを聞いて育ったそうです。そんな宮本さんが、銀座の街に提案してくださったことは？

プロムナード銀座2008 銀座街づくり会議シンポジウム



「銀座文化の創造」



10月27日(月)、シテ・ドゥ・タン・ギンザにて、約100名の方を集めて「銀座文化の創造」と題してシンポジウムを開催しました。

宮本亜門さんをお願いした講演のタイトルは「銀座劇場の演出」です。宮本さんは以下のような話をしてくださいました。

新橋演舞場前で喫茶店を営むご両親のもとに生まれました宮本さんは、小さい頃から銀座じゅうを歩き回り、銀座は世界一素晴らしい街と言い聞かされて育ちました。20代で演出家を志した宮本さんがデビュー作「アイガットマーマン」を上演したのは築地本願寺のブディスト・ホール。これも、銀座から離れたくないという思いがあったから。そして再演は日生劇場でした。さらに銀座博品館で再演。もともと銀座は、木挽町に江戸三座が発祥した芝居町。新橋演舞場や歌舞伎座があり周辺にも映画館や劇場が建ち並んでいます。宮本さんは、銀座は日本のブロードウェイなのだ、と言います。

銀座は和と洋を見事に折衷して新たなオリジナリティを出していった地域です。銀座にはいくら海外のブランド店が進出しても、地元のオリジナリティがまだ残り、それと融合している。しかも銀座では、まちづくりの方向性や看板や街並みについて、街の人が語り合うことをしている。そういう努力から銀座の良さは残っているのです。

「銀座劇場」には、舞台セット、照明、衣装、とあらゆるものが揃い、演出家として銀座を見たときに、欠けているものはないそうです。しかしもし、手薄なところがあるとすれば、プロデューサーと演出家の存在です。プロデューサーとは、お金を集めて全体の切り盛りをする人。そして演出家を含めてキャスティングをしていく役割です。演出家は、舞台であれば初日という目標に向かって、それに関わるあらゆる人がコミュニケーションをできるようにしていく、つまり横のつながりをつくって

いく役割です。銀座であればその目標は「素晴らしいまちづくり」。そこに向って、横のつながりをどんどん増やすことが大事と、宮本さんは言います。

お客様は、銀座のイメージではなく、銀座の「顔」が見たいのです。こんな人たちが、これほど街を愛していますという顔が見たい。そういう情報が欲しいのです。それをどんどんおもてに出すことが大切なのです。そこで、宮本さんから、たとえば銀座4丁目交差点を半日貸し切って劇場をつくり、歌舞伎座や新橋演舞場、博品館、帝劇などに出ている役者さんたちが、寄付の呼びかけをする(ニューヨークのタイムズスクエアではやっているそうです)など、さまざまなオリジナリティあふれる、大胆で楽しいアイディアがいくつも出されました。

最後に、銀座という街に生きる誇りがとても大切であると同時に、もともと銀座のもっていた家族のような温かい人間対人間の関係をもっと大切にするすることで、銀座の魅力を増していったほしい、というメッセージで終わりました。

続くパネルディスカッションでは、銀座通連合会理事長・銀座街づくり会議議長の遠藤彬さんと、銀実会理事長の川口彰久さんが加わり、銀座アートエクステンションスクールの山本豊津さんをコーディネーターにして、宮本さんからのいくつかの提案をぜひ実現していきたいと語りました。

銀座の街並みを考える6
地域ルールとデザイン協議

日時: 2008年12月8日(月) 15時~17時半

場所: 銀座 フェニックスプラザ 3F 会議室

●基調講演「銀座まちづくりの文化と精神」他
福原義春(資生堂名誉会長)

【お申込み方法】

① お名前 ② 御社名・所属 ③ FAXorE-mail(必須)をご記入のうえ
FAXにて、お申し込みください。参加証・地図をご返送いたします。

FAX: 03-3563-0236